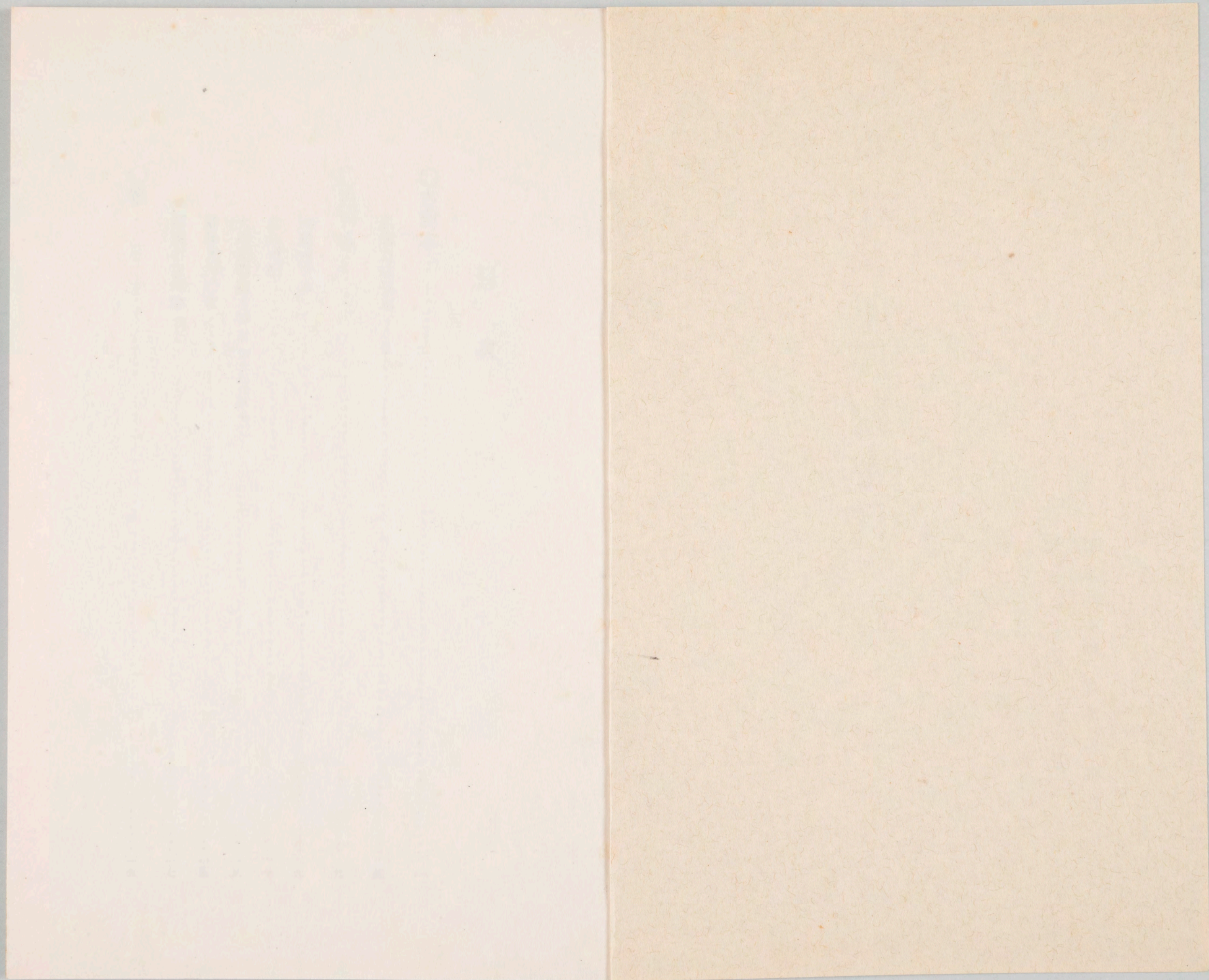


東洋文庫展觀書目 乙

大正十三年十一月二十九・三十日
於東京本郷東洋文庫



目次

○古寫本

名家自筆稿本

○古刊本

插圖古刊本

俞良甫版

大內氏舊藏古韓本 附大內氏版本

慶長元和勅版

插圖古版地誌

○雜

一
四
六
九
一
三
五
七
九

この書目に載する所は岩崎男爵が舊來蒐集せられたる圖書の一部にして特に此際展観に供せられたるものなり。

東洋文庫展観書目乙

○古寫本

一 毛

詩零本（唐蟋蟀詠訓傳第十、蟋蟀在堂歲聿其暮至悠悠蒼天曷其有常）後漢鄭玄箋

寫本（奈良朝時代の書寫）（匡郭内豎七寸）一軸

紙背末記に「治安元年十二月五日乙卯午正時云々」

此本の考證に就きては京都帝國大學文學部景印舊鈔本第一集を參見せらるべし。

二 禮

記單疏 零本（曲禮上第一、逮事父母諱王父母、至曲禮下第二、去國三世）

寫本（平安朝初期の書寫）（匡郭内豎八寸六分）一軸

紙背に賢聖略問答を書寫し、其末に「寛弘五年四月二日於龍門南院書寫畢沙門如慶本」

三

文選 卷第四十八（鸞飛游江汜至卷末）（金澤本）

寫本（平安朝時代の書寫）（匡郭内豎七寸一分）一軸

案に經籍訪古志所載金澤文庫曾藏の「文選集注」零本三卷舊鈔卷子本（賜蘆文庫藏本）と系統を同じうするものならん。該書の條下に「集注不知出於何人或疑皇國紀傳儒流所編著者與其所引陸善經管泐鈔等書逸亡已久」といへるにも當れり。但印記無き

古寫本

こと上記訪古志の金澤本に同じ。

四 八家祕錄(諸阿闍梨真言密教部類總錄) 釋安然集

寫本(康保二年(皇紀一六二五)書寫)(竪七寸五分横五寸) 一帖

卷末記に「康保二年歲次乙丑十一月日次戊辰二日於東塔院寫之已了」

安然の序末に「仁和元年三月三日叙」とあれば、此本書寫の康保二年を距る八十一年前の所撰なり。

此書二種あり。一は初稿本にして部類を十六に分ち、一は再稿本にして二十部に分つ。而して流布の刊本は後者に屬す。此寫本も亦再稿本に屬すれども、流布本序の年紀延喜二年とあるに異り、再稿本成稿の年代を知るべきものとして尊重すべし。

安然是延曆寺の學僧にして、元慶八年元慶寺の傳法阿闍梨となり、台密教相の大成者たり。後其終る所を知らずと云ふ。

五 大般若波羅蜜多經卷第二百三十、初分辯信解品第三四之四九 唐玄奘奉詔譯

寫本(匡郭内竪七寸六分) 一軸

「藥師寺印」「藥師寺金堂」の藏印あり。長屋王願經の一にして、和銅五年(皇紀一三七二)の書寫なるべし。

六 十誦律第四誦卷第二十二 後秦弗若多羅、羅什共譯

寫本(天平十二年(皇紀一四〇〇)書寫)(匡郭内竪六寸五分餘) 一軸

光明皇后の願經り。卷末例文跋に曰く「皇后藤原氏光明子奉爲尊考贈正一位太政大臣府君尊妣贈從一位橘氏太夫人敬寫一切經論及律莊嚴斷了伏願憑斯勝回奉資冥助永庇菩提之樹長遊般若之津又願上奉 聖朝恒延福壽下及寮采共盡忠節又光明子自



首卷「詩毛箋鄭」本寫古(一)

諸阿闍梨真言密教部類總錄二卷 康保二年寫本
元懷寺沙門元懷集
竊檢諸阿闍梨目錄立於貞元錄中抽具新入經法
以為真言一家教門諸鳥譯中陀羅尼法皆不取支遼
使學者不_レ由久博覽焉今據八家秘錄以爲二十部
類部類之中更分法類法類之口頭加舊翻雖冰神咒
二引頌緣文諸錄中或據本錄唯存略題或隨喜樂各
列唐名仍令後人難見據實今載本末之名自示存錄

五藏六府圖一卷 進
秘五聖僧以後續列中已
真言八家目錄 康保二年_上月_上日_上於_上塔東塔院進_上已_上
三卷本十月廿。未特文之
大師濟世書目錄 十住法華十卷 寶鑑三卷
二教經二卷 三教經四三卷 諸經抄三卷 今則在法華二卷
卷末註一四卷者本諸家宗錄 諸三卷者經錄也 印文成三年

發誓言弘濟沈淪勤除煩惱妙窮諸法早契菩提乃至傳燈無窮流布天下聞名持卷獲福消災一切迷方會歸覺路 天平十二年五月一日
記」 天平十二年は今より一千百九十五年前なり。

七 大般若波羅蜜多經卷第四百十、初分校量功德品第三十之三十八 唐玄奘奉詔譯

寫本(貞觀十三年(皇紀一五三一)安倍小水麻呂書寫)(匡郭内竪七寸五分餘) 一軸

卷末例文跋に曰く「无災殃而不消无福樂而不成者般若之金言眞空之妙典被稱諸佛之父母賢聖之師範也所以至誠奉□大般若經
一部六百卷三世大覺十方賢聖咸共證明我現當之勝必定成就貞觀十三年歲次辛卯三月三日前上野國大目從六位下安倍朝臣小水
麻呂」

八 明惠上人歌集(卷首闕) 釋高信(順性房)編

寫本(編者自筆、寶治二年(皇紀一九〇八)成)(本文竪約八寸五分) 一軸

明惠上人(高辨)の第十七回忌辰に方り高足弟子高信が上人自選の「遣心和歌集」及上人の遺稿を纂輯したるものにして、未だ
世に知れざりし上人の歌集として珍重すべきものなり。

名家自筆稿本

九 韻 鏡

寫本(元德三年(皇紀一九九一)釋玄惠書寫)(竪六寸五分横四寸三分) 一冊
奥に「元德三年正月二十三日子刻於悉地院以明本聖人之本終書寫交點之功了 可令玄惠卅」
釋玄惠は獨清軒又洗心子と號す。後醍醐天皇の侍讀師にして「庭訓往來」等の撰者なり。

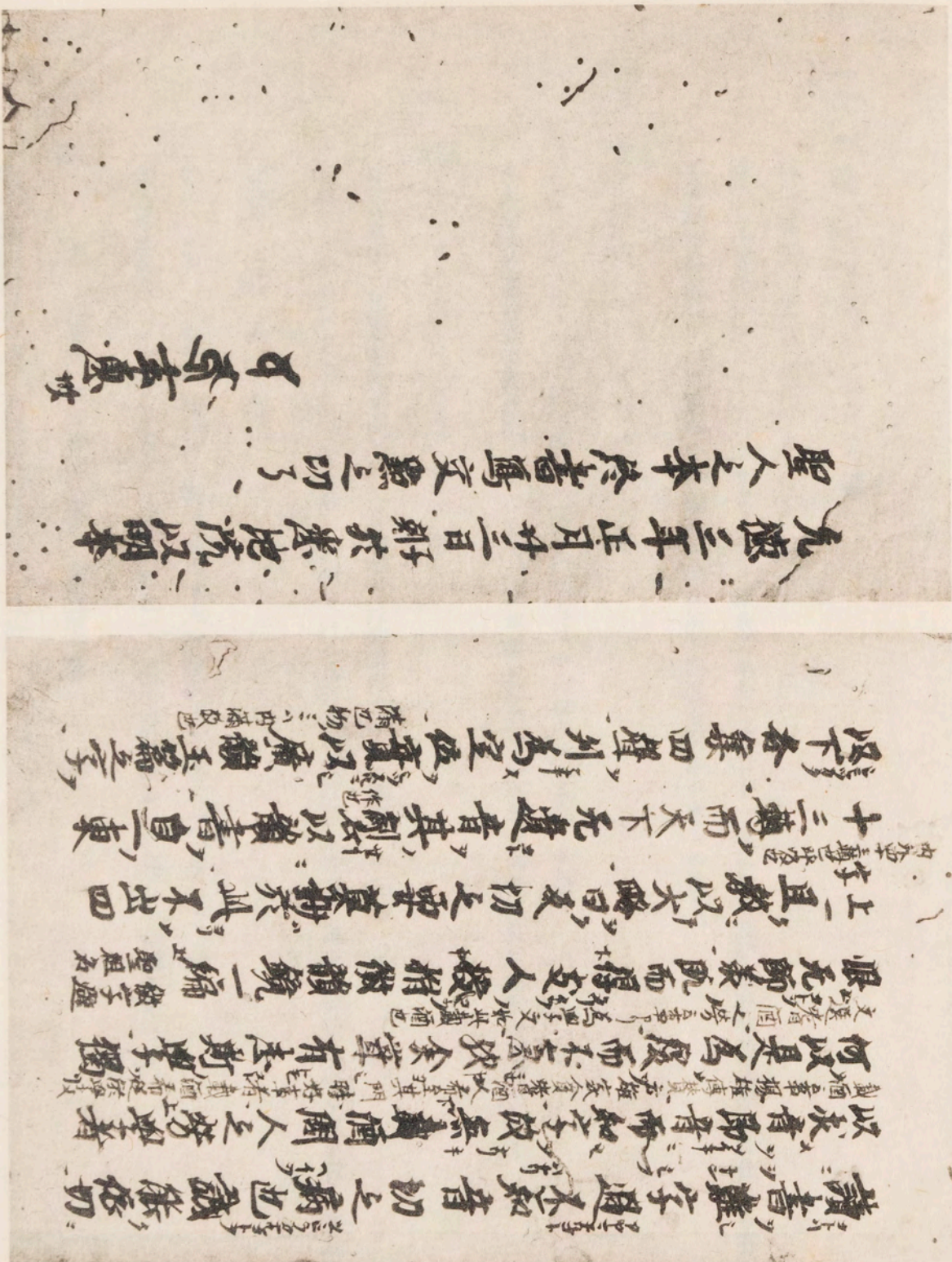
10 錦 綉 段 釋龍澤編

寫本(康正二年(皇紀二一一六)自筆)(本文竪約六寸六分横約五寸) 一冊
奥に「錦綉段 康正丙子林鐘十有七日也 天隱龍澤撰(團)」
釋龍澤字は天隱、猷雲と號し、京都建仁寺及南禪寺の住職なり。
此書朝野細俗の間に歡迎せられ、傳寫良久しき後上梓せらるるもの數四、殊に慶長の初後陽成天皇の勅版を辱くするに至れり(此勅版亦陳列中に在り(四六))。

二 帳 中 香 釋萬里撰

寫本(自筆、明曆八年(皇紀二二五九)成) 二〇卷 二〇冊
跋文尾に「明應八年己未夏五如意珠日 梅花無盡藏漆桶萬里謹跋」

(九) 元德三年釋玄惠書寫「韻鏡」首尾



三 經筵 講其他種種 新井君美撰

寫本(自筆)(本文豎約四寸九分) 一軸

經筵進講は元祿六年十二月二十五日より寶永二年十二月二十一日に至る間、白石が徳川家宣に仕へし當時前後千餘座に亘りて進講の書留なり。其他卷中の雜果には白石の學識を窺ふべきもの多し。

三 廣群芳譜 小野職博(蘭山)撰

寫本(自筆、文化三、四年頃成)(匡郭内豎五寸一分横四寸三分) 六冊

本文庫所收撰者自筆稿本類の一にして、其絶群の精力を本草學の研鑽に傾けし狀を想見すべし。

二四 國史草木昆蟲攷 曾榮(占春齋)撰

寫本(自筆、文政七年頃成)(本文豎約四寸九分横四寸) 一四卷 一四冊

曾榮は薩摩の醫官にして、本草學の研究を以て名あり。著述數十百部に及び、其稿本多く本文庫の收藏に歸せり。

二五 動植物名彙 伴信友編

寫本(自筆、文政一〇年成)(匡郭内豎五寸九分横四寸一分) 一〇卷 一〇冊

撰者は國學の大家、其餘力を本草學に注ぎて考證に努めたるは斯界の一奇觀とすべし。

二六 禽 鏡 澠澤解(曲亭馬琴)纂輯、渥美赫州畫

寫本(解説編著自筆、天保四、五年成) 六軸

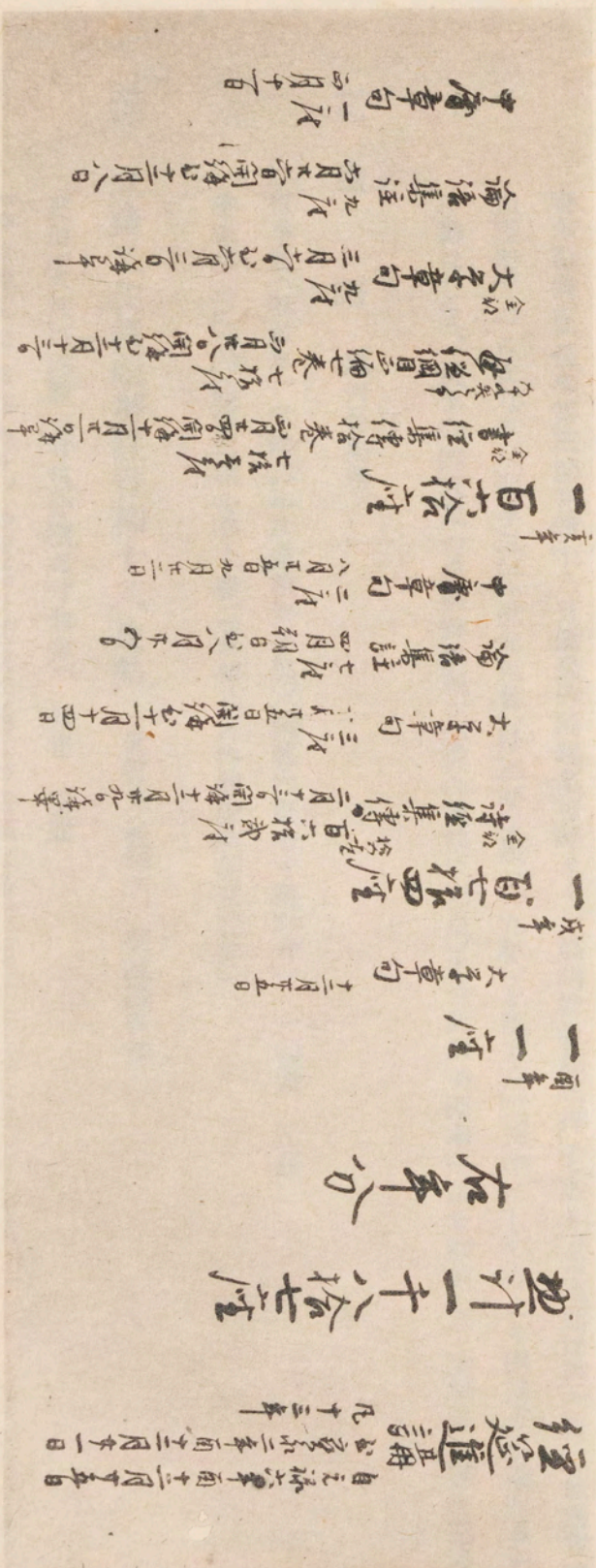
名家自筆稿本

衆禽雌雄合計三百六種を女嬭渥見赫洲をして寫生せしめ、馬琴自ら其解説を附したるものなり。
此卷軸は馬琴の最も愛藏したるものなりしが、友人讃州高松藩老木村亘（默老）に所望せられ、「天なり時なり」と歎きて金に代へたるものなり。其事著作堂雜記に見ゆ。

○古刊本

一七 論語 魏何晏集解

正平版（二跋本、清原頼元手點）（匡郭内竪七寸横六寸） 一〇卷 五冊
第一〇卷末刻記に「堺浦道祐居士重新命工鏤梓正平甲辰五月吉日謹誌 學古神德指法日下逸人貫書」「不忍文庫」「阿波國文庫」の藏印あり。
正平版論語に二跋、單跋、無跋の三種ありて、其中二跋本最も古し。本文の字體は六朝風にて書かれたる石經を基とせる北宋版に依れるものなり。
「學古神德」とは、我奈良朝の寫經生に名を神德と云ふ者あり、その書風を模倣するの義なるべしと云ふ。日下逸人の事未詳」因に云く、泉州堺浦は夙に内外交通の衝にあたり商工の業盛にして當時の一文化中心地なりき。されば此地に於て正平版論語の開版あり。又天文頃に書籍開版に熱心なる阿佐井野氏出でて、有名なる東京魯論等の刊行ありしも蓋し偶然ならず。



首卷「講進經」本稿筆自美君井新（二一）

二六 論

語 魏何晏集解

正平版（單跋本）（匡郭內豎七寸橫六寸） 一〇卷 三冊

第一〇卷末刻記に「堺浦濱祐（祐の字を誤る）居士重新命工鏤梓正平甲辰五月吉日謹誌」

卷末墨書に「長享第三曆林鐘十八日儲皇竹園賜之可祕々々 亞相拾遺郎花押」とあり。拾遺郎は内大臣三條西實隆法印堯空（號

逍遙院）のことなり。長享三年（改元延徳）は正平甲辰（一九年）を距る一二五年にして今より四三五年前なるが、當時流布既

に稀にして、後土御門天皇の皇儲勝仁親王（後の後柏原天皇）より此御手澤本一部を拜領して珍惜せし狀を見るべし。

二七 論

語 魏何晏集解

正平版（無跋本、元龜二年清原枝賢手點）（匡郭內豎七寸橫六寸） 一〇卷 五冊

卷末墨書に「元龜第二歲令辛未春二月初八宮内卿清原朝臣花押」

二八 立齋先生標題解註音釋十八史略

元曾先之編次、明陳殷音釋

五山版（匡郭內豎七寸三分橫五寸七分） 七卷 五冊

「妙智禪院」の藏印あり。妙智院は嵯峨天龍寺の塔頭なり。

二九 和讃集及正信念佛偈

文明五年刊（豎五寸二分橫三寸五分） 四帖

卷末刻記に「右斯三帳和讃并正信偈四帖一部者末代焉興際板木開之者也而已 文明五年癸巳三月日花押」

古刊本

三 標題句解孔子家語 元王廣謀句解

慶長四年刊(伏見活字版、跋文一葉補寫)(匡郭内豎七寸四分横五寸三分) 三卷 三册
刻跋文末に「慶長第四龍集己亥仲夏吉辰 前學校三要野納於城南伏見里書焉 慈眼刊之」
此本は徳川家康が文教復興の旨趣を以て禪僧三要に木活字を下附し、山城伏見に於て古典を刊行せしめたるものの一なり。
「稽古齋圖書」等の印あり。

三 貞觀政要 唐吳兢撰、元戈直註

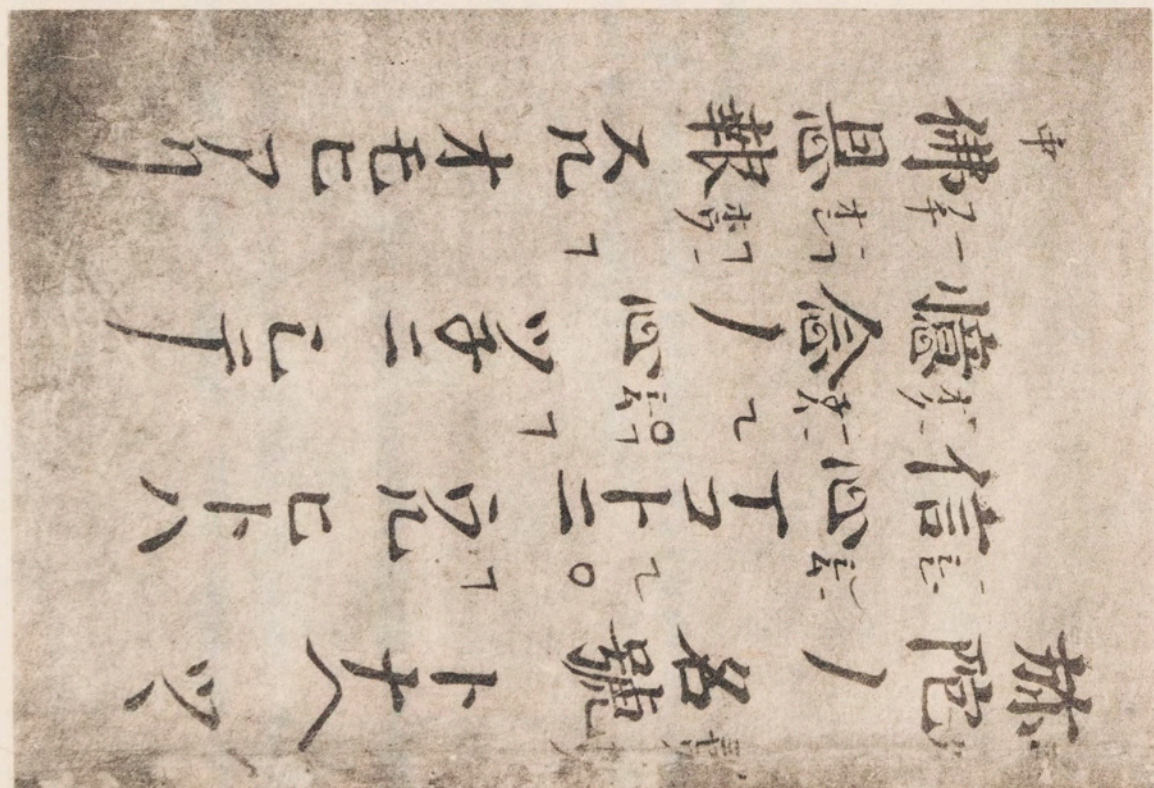
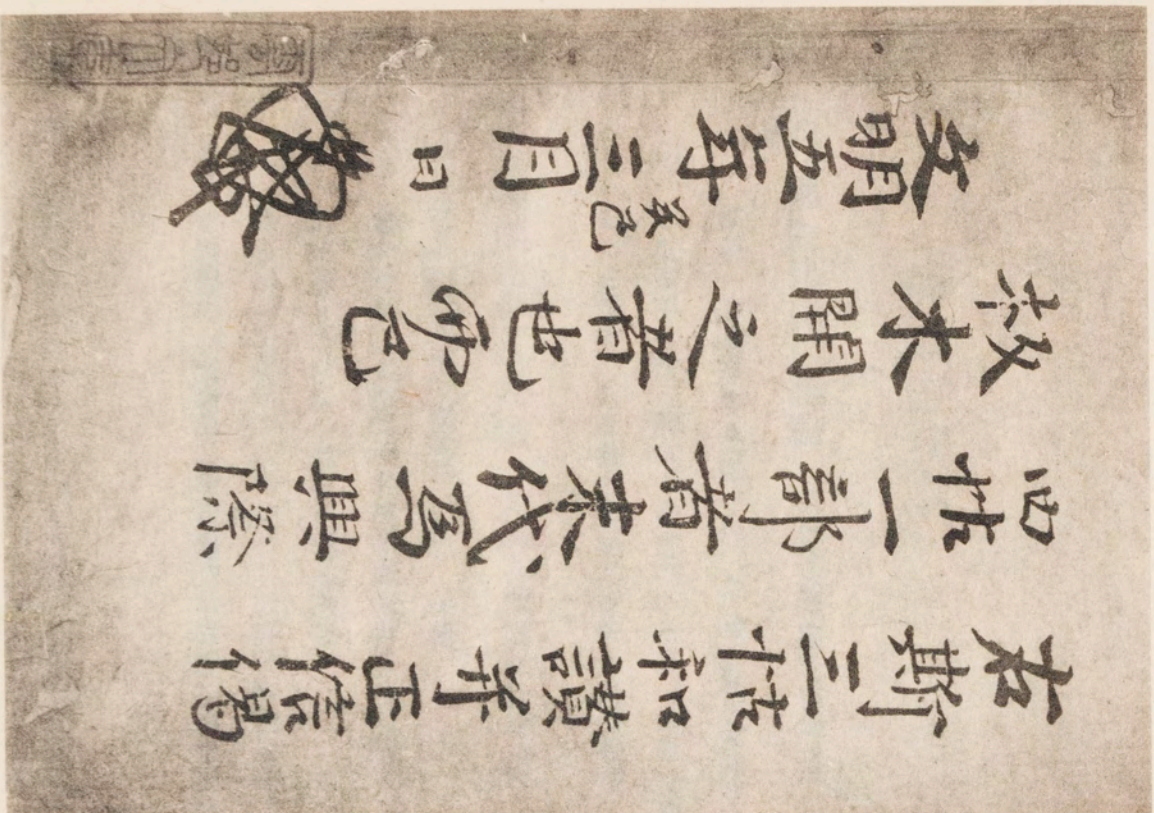
慶長五年刊(伏見活字版)(匡郭内豎七寸四分横五寸三分) 一〇卷 八册
刻跋文末に「慶長五年星輝庚子花朝節 前龍山見鹿苑承兌叟謹誌 慈眼久徳刊之」

二 徒然草 第二册(花はさかりに月は云云至終) ト部兼好撰

活字版(光悦本)(豎約七寸三分横五寸四分) 一册
慶長頃山城鷹が峯の本阿彌光悦及び嵯峨の角倉與市が其美筆を版下にして活字を作り、用紙装釘等に美觀を添へて續續佳本を刊行したり。之を光悦本及び嵯峨本と云ふ。
この本の第二十六葉は光悦の自書補寫に成れり。

五 方丈記 鴨長明撰

慶長一五年刊(活字版、光悦本)(豎約七寸三分横約五寸二分)



(二二) 文明五年刊「和讃集」首尾

挿圖古刊本

二六

佛制比丘六物圖

宋釋元照(靈芝律師)撰

京都 寛元四年(皇紀一九〇六)刊(竪六寸四分横四寸三分) 一帖

本書は現存繪入版本の最古の一なり。挿畫は法衣、僧具等の簡單なるものなれども、後年の版畫を起すに幾分の影響ありしものと信ず。但此頃の挿圖本は宋元版の覆刻に止り、未だ我國の創刊に係るはあらず。

二七

佛制比丘六物圖

宋釋元照(靈芝律師)撰

五山版(竪七寸横四寸一分) 一冊

卷末刻記に「此圖印板稍欲湮沒仍爲弘通重命工壽良梓夫以本覺理性雖昧靈鑑於群凡嚴制威儀要耀餘光於末運庶受遺寄永垂無窮弟子了玆謹誌 板在南禪真乘院」

墨書に「明應第四乙卯仲秋十月於常樂偕句點了守懌行年五十二」 守懌(自悅は東福寺に住し其百八十四世たり。

又墨書に「文龜元年辛酉五月七日朱句墨點加之畢以了玆本寫之桂林」 桂林(德昌、葵庵)は建仁寺に住し其二百三十一世たり。

二八

禪家四部錄(信心銘、證道歌、十牛圖、坐禪儀)

五山版(二葉補寫)(匡郭内竪六寸横三寸八分) 一冊

挿圖古刊本

四部中「十牛圖」に挿畫あり、傳に雪村筆と云ふ。

卷末墨書に「昔文明龍集己丑於賀茂縣惣持季穗十有日書焉」文明己丑(元年)は今(大正一三年)を距る四五六年前なり。

二元 分類合璧圖像句解君臣故事

五山版(匡郭内縦五寸七分横三寸七分) 二卷 合一冊

此本は元版を覆刻せるものなり。

「長慶禪寺」「大石清玩」等の印記あり。

三〇 帝鑑圖說 明張居正編

慶長一一年刊(活字版)(縦七寸三分横四寸八分) 六卷 六冊

刻版文末に「右相府秀頼公及見此畫手之口之寅夕無不披覽也仍命工刻于梓而壽其傳於無窮也云云 慶長拾壹稔星集丙午春三月日豐光老納承兌」とあり。即ち豊臣秀頼の刊行せしものなり。是より先朝廷竝に徳川家康活版を以て古典の複刊を圖りしより、豊臣氏亦其弊に倣ひて此舉ありしならん。但豊臣氏の所刊此外に在るを聞かず。

三一 孔子聖蹟之圖 明張楷式編

慶長一三年刊(匡郭内縦約七寸一分横五寸三分) 二卷 二冊

見返刻記に「此孔子聖蹟者我曾祖父前相州刺史日新翁爲之屏障置之座右以備其觀覽矣予幸繼其芳躅將廣曾祖父業因命畫師等林摹之以欲使我孫子仰聖跡於百千歲之後今寄附之高野山所異此圖之設與山彌高與永彌長聖道之傳乘諸無窮寄附之志在茲而已 慶長十三白戊申三月島津奥守藤原家久」 即ち古薩摩版の一なり。

(二八) 五山版十牛圖



三 君臣圖像

古活字版（匡郭内竪八寸六分横六寸六分） 二卷 二冊

刊年未詳なれど慶長末年頃所刊なるべし。具には「分類合璧圖像句解君臣故事」と云ふ。本録（二九）を参照すべし。

三 伊勢物語

慶長一三年刊（活字版、嵯峨本）（本文竪七寸三分横四寸八分） 二卷 二冊

卷末刻跋の終に「慶長戊申仲夏上浣也足叟（自署）花押」也足叟は中院通勝の號なり。

三 聖堂之畫圖 菱川師宣畫

元祿四年刊 一鋪

將軍徳川綱吉元祿三年聖堂を湯島臺に造營し、明年聖像を遷す。本圖が其年名工の筆によりて公刊せられしは當時一般市井の思潮が崇學興文に在りしことを見るに足らん。

兪良甫版

兪良甫は支那元朝の人にして、明朝の興立に際し亡命して日本に來り、山城嵯峨邊に住して漢籍佛書の複刻に従事したり。或は彫板者として署名し（本録「三五」の如く）、或は學士と稱せる（本録「三七」の如く）などを見るに、多少の學才ありて兼ね

兪良甫版

て雕刻の技に熟せる人なるべし。

壹 月江和尚語錄 宋釋居簡等編

五山版(上集二冊) 俞良甫版(下集二冊)(匡郭内縦五寸四分横四寸餘) 四冊
下集版心刻記に「良甫」「彦明」 下集卷末左文字陰刻記に「良甫自刊月江語錄下集」
六月初旬謹題□

貳 春秋經傳集解(春秋左氏傳) 晉杜預撰

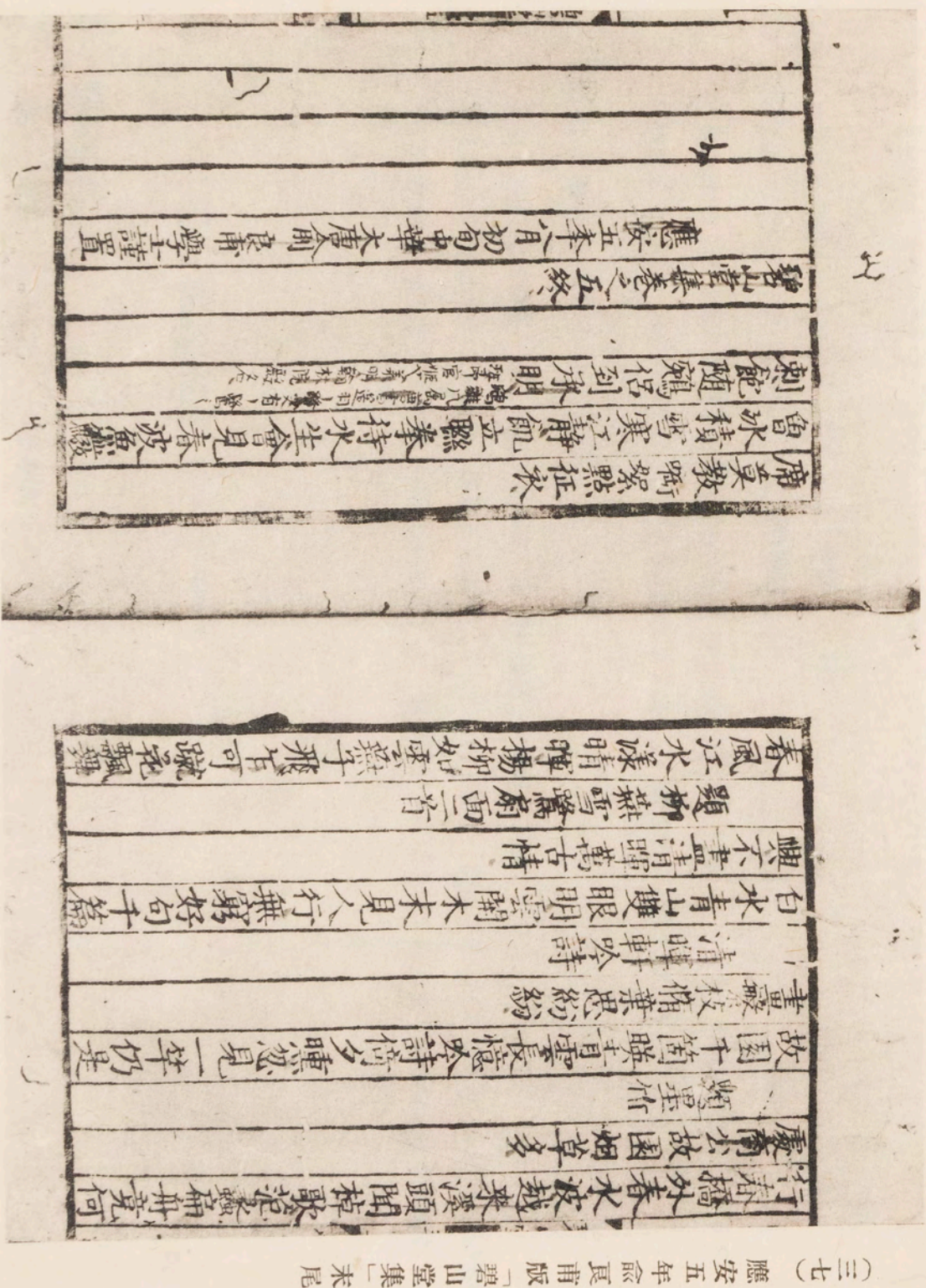
刊本(俞良甫版)(匡郭内縦七寸一分餘横四寸八分) 三〇卷 三〇冊
俗に博多版と稱すれども、京都附近嵯峨邊にて刊行せられたるものは別書「柳文」(三八)の刻記によりて推知すべし。

参 碧山堂集 元釋宗衍撰

應安五年刊(俞良甫版、卷一、二補寫)(匡郭内縦六寸四分横四寸一分) 五卷 合一冊
卷末刻記に「應安五年八月初旬中華大唐俞良甫學士謹置」

四 新刊五百家註音辯唐柳先生文集 魏仲舉編

嘉慶元年刊(俞良甫版)(匡郭内縦六寸六分横五寸六分) 四五卷 二〇冊
卷末刻記に「祖在唐山福州境界福建行省興化路莆田縣仁德里臺諫坊住人俞良甫久住日本京城阜近幾年勞鹿至今喜成矣 歲次



「丁卯仲秋印題」とあり。案に歳次丁卯は嘉慶元年（皇紀二〇四七）に當れり。

三九 五百家註音辯昌黎先生文集 魏仲舉編

刊本（俞良甫版）（匡郭内豎七寸三分横六寸七分） 四〇卷 二〇册
本書刊年の記無けれど、別書「柳文」（三八）と類似版式なれば、嘉慶前後の所刊なるべし。

四〇 般若心經疏 唐釋法藏（賢首）撰

應永七年刊（俞良甫版、第一葉闕）（本文豎六寸四分横四寸八分） 一册
卷末刻記に「印施賢首大師般若心經疏伏願頓悟般若之妙心朗開群生之慧自功德遍三世利濟流十方法界含靈同圓種智者也 應永二年季春日 維納釋梵書拜書 大明國俞良甫刊行 應永第七寶曆沾洗上巳嘉辰持行救贖戒禪大僧都慈顯」

大内氏舊藏古韓本 附大内氏版本

四一 緇林寶訓

刊本（高麗版）（匡郭内豎五寸八分横四寸九分） 一册
「日本國王之印」「大宰大貳」の兩印あり。
大内氏舊藏古刊本

大内氏舊藏古刊本

四二 唐駱賓王詩集 唐田瀾編校

刊本(高麗版) 匡郭内竪七寸五分横五寸四分) 一册
「日本國王之印」「大宰大貳」の兩印あり。又「今井文庫」「深川文庫」等の藏印あり。

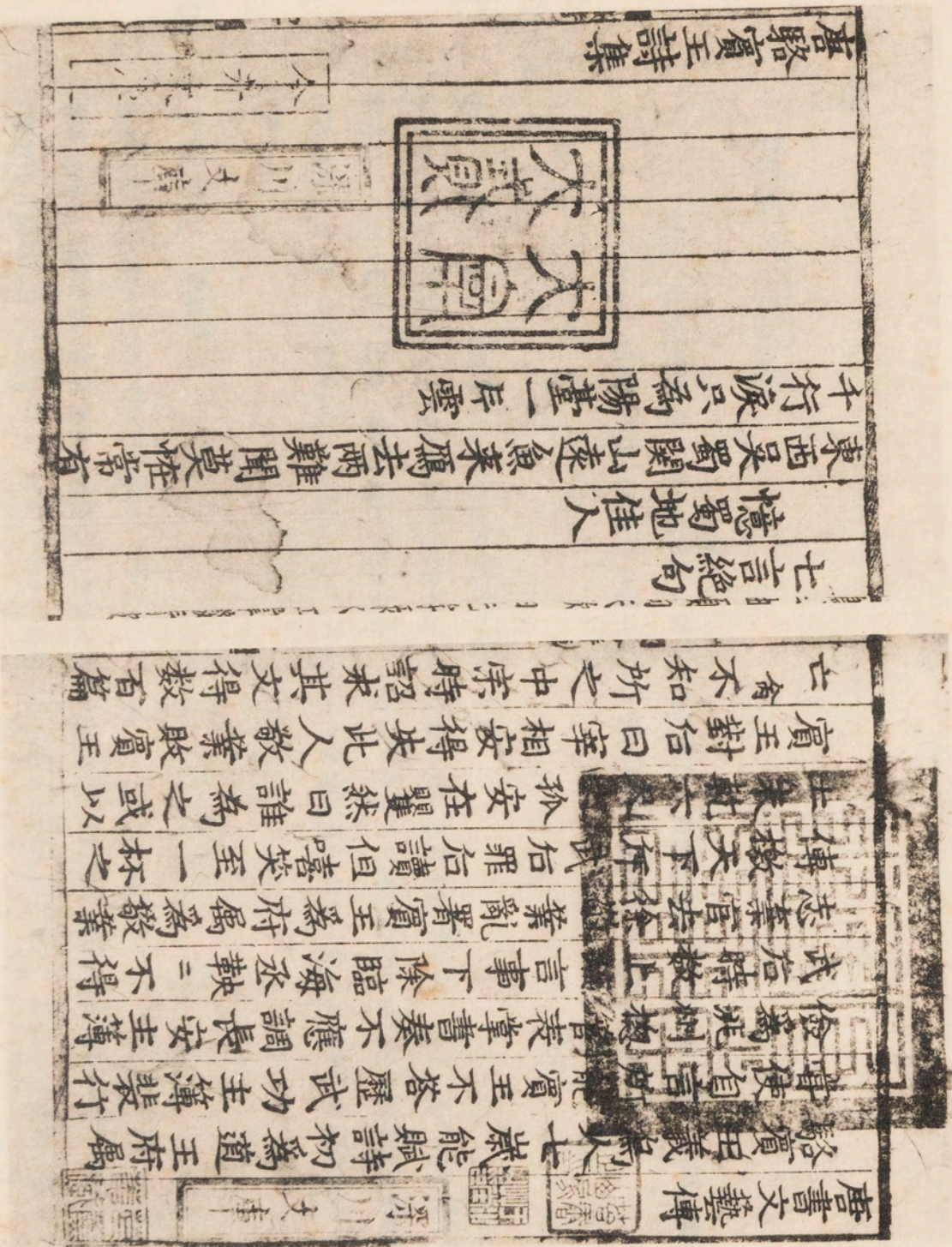
四三 續三綱行實圖 朝鮮申用溉等奉勅撰

刊本(朝鮮版、明正德九年序)(匡郭内竪八寸餘横五寸三分) 二卷 二册
「日本國王之印」「大宰大貳」の兩印あり。又「養安院藏書」等の印記あり。

四四 聚分韻略(三重韻) 釋師鍊編

天文八年刊(大内版)(匡郭内竪四寸一分餘横三寸九分餘) 一册
跋文末に「昔天文八年己亥春三月日正四位下行大宰大貳兼兵部權大輔周防介臣多多良朝臣義隆」
本書は周防國山口の大内氏が山口文明を誇らんとして開版事業を企てたる結果の一なり。
因に云く、聚分韻略の開版は其種類頗る多く、文明版、明應版、永正版、享祿版 及びここに擧げたる大内版の外に明應版
異版、天澤寺版、慶長版、また開版年代未詳のものもあり。以て往時此書の大に流行せし狀を推想すべし。

(四二) 高麗版「唐駱賓王詩集」首尾



慶長元和勅版

此等の勅版は後陽成天皇及後水尾天皇が延臣西洞院時慶等に命じ、禁中に於て活字を以て植版印刷せしめられしものなり。以て英主崇文の盛意を窺ふべし。慶長勅版の事は「時慶卿記」に散見す。

望 勸學文

慶長二年刊（活版）（匡郭内竪八寸三分横五寸三分餘） 一冊

卷末刻記に「命工每一梓鏤一字基布之一版印之此法出朝鮮甚無不便因茲摸寫此書 慶長二年八月下澣」
墨書に「上ヨリ時直ニ拜領 慶長二年八月廿六日」とあり。時直は西洞院時慶の息。父時慶が勅版事業を幹せし關係より、出版後直に此一部を拜領せしことの謂にして、上とあるは後陽成天皇を申し奉れるなり。此墨書筆者の時慶卿なるを察すべし。

興 新刊錦繡段 釋龍澤編

慶長二年刊（活版）（匡郭内竪八寸三分横五寸三分） 一冊

卷末刻記に「叡思亭在擬周詩六義歎以化之家藏人誦傳之不朽云 慶長第二歲在丁酉夷則下澣 臣僧南禪靈三誌焉」
「圓融藏」盛胤之印」の藏印あり。圓融は後水尾天皇の皇子梶井宮常尹親王なり。剃髮して盛胤と稱し、天台座主に補し二品に叙せらる。

慶長元和勅版

慶長元和勅版

四七 古文孝經(孔子傳)

慶長四年刊(活版)(匡郭内竪八寸三分横五寸三分) 一册
見返刻記に「孝經慶長己亥刊行」

四八 孟子

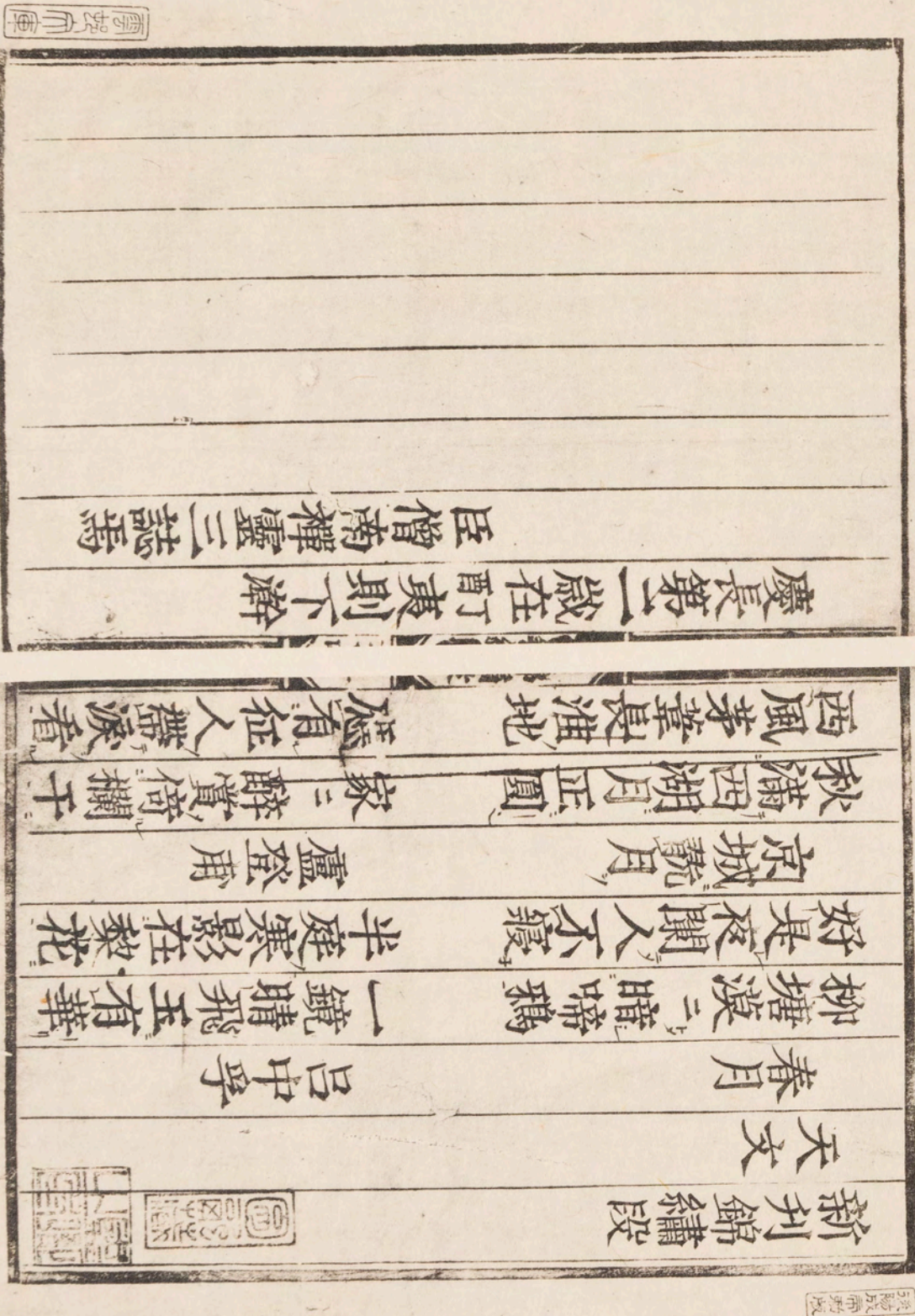
慶長四年刊(活版)(匡郭内竪八寸三分横五寸四分) 一四卷 二册
見返刻記に「孟子慶長己亥刊行」
此本は慶長勅版四書の一部を成すものなり。

四九 日本書紀(卷第一、二(神代紀) 舍人親王等奉勅撰)

慶長四年刊(活版)(匡郭内竪五寸二分餘横四寸四分) 二册
見返刻記に「日本書紀慶長己亥季春新刊」
卷末刻記に「陛下寬惠觀智之餘後世惜其流布之不廣遂命鳩工於是始壽諸梓矣云云 慶長己亥姑洗吉辰 正四位下行少納言兼侍從臣清原朝臣國賢敬識」

五〇 皇朝事實類苑 宋江少虞撰

元和七年刊(活版、麻沙本覆刻)(匡郭内竪七寸四分餘横五寸五分) 七八卷及目錄 一五册
此本は元和七年後水尾天皇の勅志により、特製の銅活字を以て刊行せしめられたるものにして、元和勅版と稱す。



(四六) 慶長二年勅版活字本「新刊錦繡段」首尾

挿圖古版地誌

五二 京 童 中川喜雲撰

京都 明暦四年刊〔匡郭内縦七寸横五寸一分〕六卷 六冊
奥刻記に「明暦四戊戌年七月吉日 さはら木町通烏丸東へ入町山森六兵衛刊行」
繪師の名なし。或は吉田半兵衛か。本書は著者喜雲二十三歳の作なり。

五三 京 童 跡追 中川喜雲撰

京都 寛文七年刊〔匡郭内縦六寸八分横五寸餘〕六卷 六冊
奥刻記に「寛文七丁未年九月吉日 さはら木町通烏丸東へ入町山森六兵衛刊行」 著者時に年三十二。

五四 京 雀 丹綠本

京都 寛文五年刊〔匡郭内縦六寸七分横五寸〕七卷 七冊
奥刻記に「寛文五年正月日 山田市郎兵衛版」
著者の名なし。或は淺井了意の撰か。又繪師の名なし。或は吉田半兵衛か。

五五 都案内者 あとおひ京すめ 卷一、四、五

江戸 寛文十一年刊〔匡郭内縦七寸三分横五寸五分餘〕零三冊

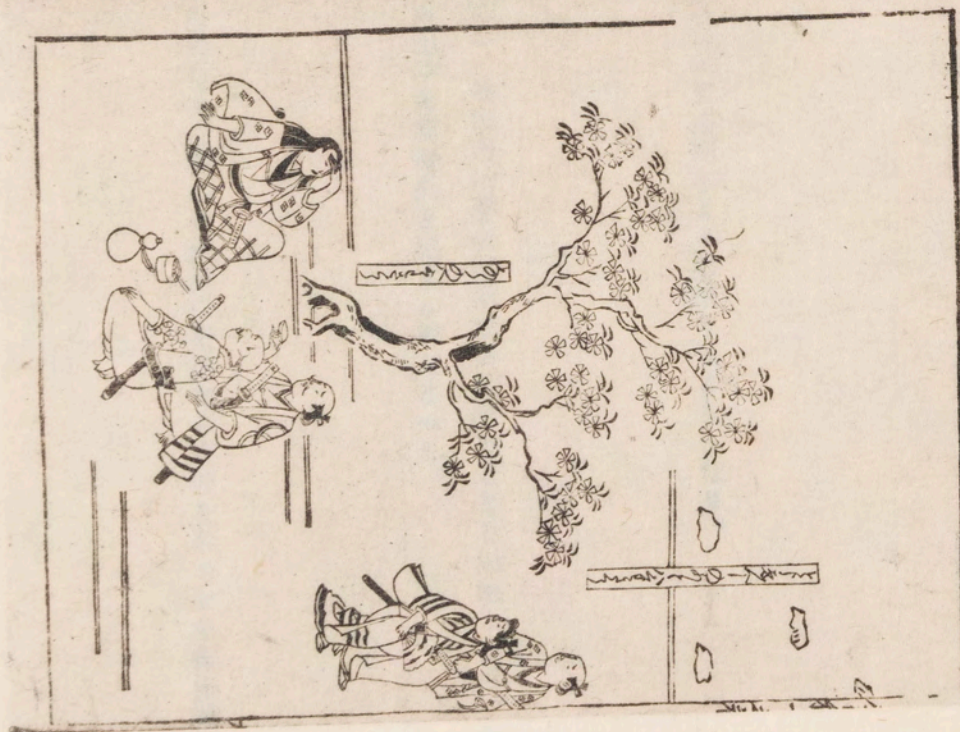
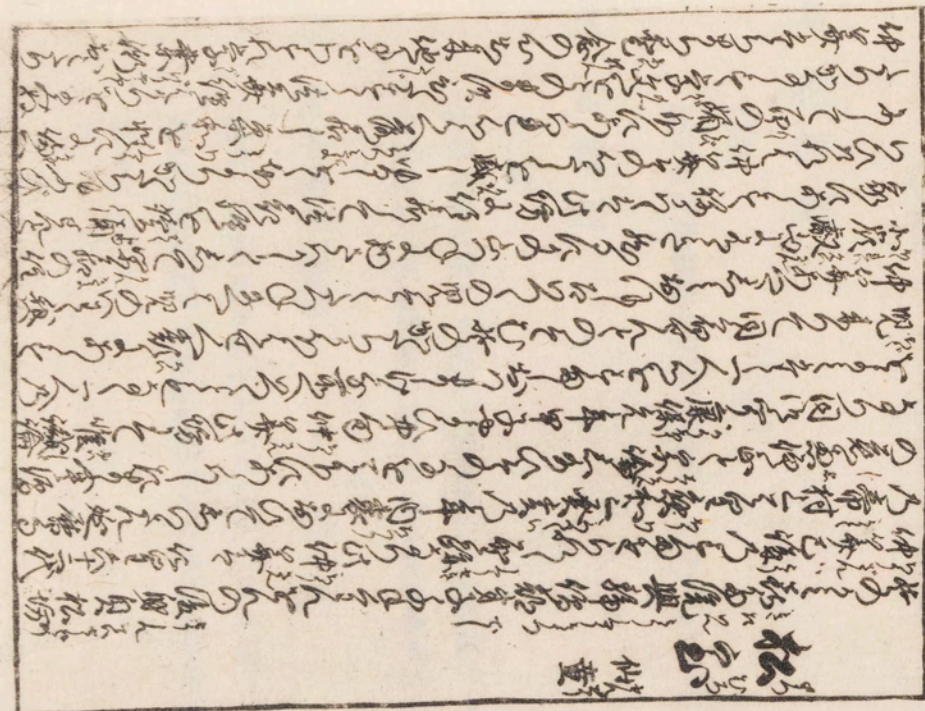
奥刻記に「寛文十一辛亥曆霜月中旬」

五 江戸雀 菱川師宣撰拜畫

江戸 延寶五年刊(匡郭内竪七寸七分横五寸七分) 一二卷 一二冊
奥刻記に「延寶五年丁巳仲日武州江戸之住繪師菱川吉兵衛 江戸大傳馬町三丁目鶴屋喜右衛門板」
第一二卷末に大小名屋敷、神社佛閣、町、橋の統計數字を挙げたるは概略に過ぎずと雖も、從來の地誌に無き所にして頗る珍とすべく、又堺町歌舞伎狂言圖、日本橋圖、吉原揚屋圖などは徵古の好資料なり。要するに本書は挿圖を以て優るものとす。

美 奈良名所八重櫻 大久保秀興、本林伊祐共撰、菱川師宣畫

江戸 延寶六年刊(卷一、二、三、補寫)(匡郭内竪七寸二分餘横五寸五分) 一二卷 一二冊
奥刻記に「延寶六年戊午二月吉日 江戸之住大久保鑑秀興、南都之住本林氏伊祐兩作 江戸小傳馬町三丁目柏屋仁右衛門開板」
本書に東大寺大佛露天の圖あり。乃ち元祿度の殿宇建立に先つ十餘年前の狀態を窺ふべし。



(五六) 延寶六年刊「奈良名所八重櫻」卷十

○雜

毛 花押集

三帖

徳川時代諸侯等の花押を蒐集したるものにして、皆公私文書原本より剪取りたるものなり。

丑 古幣鑑

一〇帖

享保以後に於ける五畿七道各地通用の古紙幣を蒐集し、なほ明治舊紙幣及び外國楮幣若干を添加したり。此等の古幣中通用範圍極めて狭き局所の發行に係るもの多きは今代人士の見て奇異を感ずる所なるべし。

丑 青本繪外題集

江戸 版畫(延享元年至文政五年) 一一冊

所謂黄表紙類の外装貼外題千九百餘點を集めたるものなり。狭小の紙面に奇抜なる意匠を凝らせる浮世繪師の競争的努力を見るべし。

製版印刷 大塚巧藝社
東京市本郷區湯島四丁目二十番地

